
梅雨の夜の…

彼方

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梅雨の夜の…

【著者名】

彼方

N6695A

【あらすじ】

世の中の小学生はこんなことを考えているかもしない…毎年梅雨に入る頃のこの日を、今年はどう切り抜けようか。

枝豆にビール。これがあれば完璧だ。

欲を言えばビールはキンキンに冷え、窓辺には風鈴がちりんと涼しげな音をたてる、そんなシチュエーションであれば、夏はなおさら良い季節になる。

喉を鳴らし、冷たい液体を流しこみ、テレビのスイッチを入れればナイター中継。

台所からは妻の鼻唄が聞こえ、目の前には可愛い息子が座っている。

極楽浄土、至福の時となうことだ。：

ナイター中継、今日の試合は父さんが覇戻している球団だ。これに勝てば連敗脱出。負ければ七連敗。

「どう？」

キンキンに冷えたオレンジジュースを飲みながら、僕はうなだれた父さんの禿げかけた登頂部を見る。

「……もう少し夢のある…」

言いかけて、目頭を押さえる父さん。

父さんが手にしているのは僕の学校の宿題。“将来の夢”というタイトルの作文だ。

「小学四年生なんだから、もつといつ…消防士とか、サッカー選手とかカツコイイ夢があるだろ？？」

悲しげな顔で父さんは言つ。

「父さんが小学生の頃はなあ、野球選手になろうと思つてたが。田指せ長嶋以上の名選手つてな。それから中学生の頃はなあ…」
僕はちょっとはにかみながら、首を横に振つた。

「ううん。それでいいんだよ。」

かわいい息子や奥さんのためにいつしょうけんめい働いてる大好きな父さんみたいに、ビールを飲んで、ナイター観るのがぼくの夢なんだ。

涙ぐんで感動する父を横田に見ながら、僕は心の中でため息をつく。

やれやれ。毎年恒例『父の日の可愛い息子』も乐じゃない。額にかかる前髪をかきあげ、来年の父の日はどうかと考えながら、僕はジーストを飲み干す。

テレビの中で、父さんの最強の球団が、逆転サヨナラ満塁ホームランを打たれて見事七連敗していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6695a/>

梅雨の夜の...

2010年10月13日22時01分発行